第５章　各校種における積極的な生徒指導の取組

１　Ａ小学校における実践例

昨年度は，主に不登校児童を対象にしながら生徒指導上の諸問題が起きた（起こりうる可能性がある）場合，個別に教育相談をしたり，学級において全体指導をしたりするなどの指導・援助を行ってきた。

本年度は，昨年度の課題を踏まえ，生徒指導上の問題を未然に防止するため，児童の実態調査の結果を生かしながら，児童一人一人が，自己理解を深め，お互いを理解し合う授業づくりが必要であると考えた。

そこで，積極的な生徒指導の取組として，以下の取組を進めることとした。

○　児童の実態調査「心の元気調べ」の実施と分析
○　学級活動における人間関係づくりの取組（５，６年生）
○　関連するその他の教育活動

⑴　児童の実態把握について

学校では，年２回「心の元気調べ」として，**図18**の実態調査（質問の一部抜粋）を行っている。

９月下旬に実施した実態調査の結果では，「学校が楽しいか」，「いやだなと思うことがあるか」の質問に対して，５，６年生では，前向きな回答がそれほど多くなかった。

そこで，５，６年生の学級活動の時間において構成的グループエンカウンターの手法を取り入れた授業を展開することで，児童一人一人の学校生活を充実させるとともに，学級集団内における望ましい人間関係づくりを促進するための取組を行うことにした。

『心の元気調べ』（一部抜粋）

自分の気持ちに，よくあてはまるものに○をつけてください。

１　学校は楽しいですか。
はい　　どちらともいえない　　いいえ

２　朝，学校に行きたくないと思うことがありますか。
いいえ　　ときどきある　　よくある

３　学校がいやだなと思うことがありますか。
いいえ　　ときどきある　　はい

４　３で「はい」と答えた人は，それはどんなことですか。あてはまるものに○をしてください。
（　）　勉強が分からない。
（　）　きらいな勉強がある。
（　）　運動がにが手で，体育やなかよし体育が楽しくない。
（　）　給食の時間が楽しくない。
（　）　友達のことでなやんでいる。
（　）　先生とうまく話ができない。

図18　実態調査「心の元気調べ」より

⑵　構成的グループエンカウンターを実施する目的と効果について

構成的グループエンカウンターとは，学級などを単位としてエクササイズを実施し，他者との触れ合いを通して児童の人間的な成長を図ることを目的として行われる技法である。

ア　目的

①　自己防衛しない援助的人間関係づくり

②　あるがままの自分や友達を受容する手だて

③　生きる力，問題を解決する力を培う，心の触れ合う人間関係づくり

④　感情を豊かに表現させて，毎日の生活の充実感を高める活動体験

イ　効果

①　不登校・いじめ予防の効果

②　コミュニケーションづくりの効果

③　教師と児童との関係性づくりの効果

④　生きる力をはぐくむ効果

⑶　特別活動の実際Ⅰ（５年生での実践：エクササイズ「温かい言葉のシャワー」10月）

ねらい	・　温かい言葉を掛けられる体験を通して，そのよさを味わったり，人間関係に好ましい影響を与えたりすることに気付くことができる。 ・　友達のよさに気付き，今後の生活を見直そうとする態度を養う。

主　な　学　習　活　動	指導上の留意点
1　ウォーミングアップをする。 2　活動のめあてを確認する。 温かい言葉のシャワーを友達にあびせよう。 3　相手のグループのメンバーの「いいとこさがしカード」を記入する。 4　グループで向かい合って発表する。 5　みんなの前で発表する。	・　相手を元気にする温かい言葉かけをする活動だということを確認させる。 ・　「いいとこさがし」をした後には，必ず感情を表す言葉を入れることがルールであることを確認させる。 ・　発表の際には，①相手をきちんと見る，②聞こえる声で言う，③笑顔で言う，ことを意識させる。

・　〇〇さん，調理のとき，お願いしたら，何でも「いいよ」と言ってくれたね。やさしいなあと思いました。
・　〇〇さん，いつも体育の時間，あきらめない気持ちを感じています。わたしもがんばらないとと思います。

6　授業の感想を書く。

・　友達に自分のいいところを書いてもらって，うれしかったし，心がぽかぽかしました。友達に温かい言葉を，かけてあげたら，もっと仲良くなれるだろうなあと思いました。
・　〇〇さんから「いいところ」を言われ，すごくうれしくなった。私が，友達のいいところを言うことで，友達がうれしくなったら，最高だ。

⑷　特別活動の実際Ⅱ（５年生での実践：エクササイズ「どの季節が好き？」12月）

ねらい	・　自分の考えを友達に伝え，多様な考えがあることを知る。

主　な　学　習　活　動	指導上の留意点
1　ウォーミングアップをする。 2　活動のめあてを確認する。 春夏秋冬のよさを話し合おう。 3　同意見の友達でグループを作り，リーダーを決める。 4　互いにその理由を発表する。 5　リーダーが自分たちのグループの意見をまとめて発表する。 6　授業の感想を書く。	・　各自で春夏秋冬，どの季節が好きかワークシートに書き，その理由も考えさせる。 ・　選んだ季節ごとにグループを作らせ，自分の理由を発表させ，リーダーがグループの意見をまとめる。その際，人数の多い少ないで，「どれが正しい」はないことを確認させる。

・　みんなの発表を聞いて，ぼくは，考えてみればこっちの方もいいかもしれないと思いました。みんないろいろな意見をもっているんだなあと思いました。
・　友達の発表を聞いて，秋だけでなく春・夏・冬も好きになった。季節ごとに，その季節にしか見られないもの，その季節でしかできないものがあっていいと思う。

⑸　特別活動の実際Ⅲ（６年生での実践：エクササイズ「わたしは，わたしが好きです。」11月）

ねらい	・　前向きに自分自身について話すことで，自分を肯定的にとらえる。
主　な　学　習　活　動	指導上の留意点
1　ウォーミングアップをする。 2　活動のめあてを確認する。 自分のいいとこ作文を書こう。 3　ワークシートに自分を好きな理由を書く。 4　ワークシートに記入したことを発表する。	・　ワークシートの「わたしは，わたしが好きです。なぜなら」に続く文章をできるだけ多く記入させる。 ・　発表する際は，共感的に受け止めるようにさせる。

【わたしは，わたしが好きです。なぜなら・・・】
・　本を読んで，いろいろなことを知り，もっと知ろうとするからです。
・　家族が，「無理」と言っても，あきらめずに，夢をかなえてみようと思っているからです。

5　授業の感想を書く。

・　自分の好きな理由がなかなか見つからず，いやなことばかり思い出された。自分を変えていかないといけないと思った。
・　友達に自分の好きなところを言えて，何だかすっきりして，気持ちよかったです。でも，少しはずかしいでした。
・　今日の授業ははずかしかったけど，友達と本当の気持ちみたいなものを言い合って，なんかいい時間だったなあと思いました。

⑹　その他の教育活動から

ア　自分の存在感を高めさせる活動

㈠　学級活動「生命尊重」　（５年生・・・学級活動）

㈡　人権月間での「いいとこ発見の木作成」　（総務委員会・・・児童会活動）

イ　積極的に地域とかかわることで，存在感を感じさせる活動

㈠　大隅横川駅花壇・プランター管理　（栽培委員会・・・児童会活動）

㈡　地域活性化のためのプロジェクト案　（５，６年生・・・総合的な学習の時間）

⑺　成果と課題

ア　成果

㈠　「心の元気調べ」は，個人ファイルに保管しておくことで，教育相談の際の参考となった。

㈡　学級活動における構成的グループエンカウンターの実施により，友達の幅が広がり，学級全体が温かい雰囲気になった。継続的に行っていくと，より効果が現れると思われる。

㈢　授業の感想を書かせたことにより，これまで以上に児童を多面的にとらえることができた。児童の多面的な理解ができ，今後の指導・援助に有効である。

イ　課題

㈠　今回は，５，６年生を対象に構成的グループエンカウンターを取り入れた。今後は，１年生から４年生までの実態に合わせた取組も必要である。

㈡　朝の会や帰りの会，道徳・学校行事などとの関連を図りながら構成的グループエンカウンターの実施計画を立てることが必要である。

※　参考資料「平成22年度いじめ問題研修会資料」（鹿児島県総合教育センター）（H22.8.10）

２　Ｂ中学校における実践例

積極的な生徒指導を進めるためには，確かな生徒理解を図って指導・援助すること，学校全体で取り組むことが必要である。

そこで，実態調査を活用した学級での取組と学校全体で推進している取組について報告する。

⑴　自己肯定感を高め，学級集団の学習意欲向上に向けた実践

ア　実態調査の結果より

県総合教育センターとの連携で実施した「学校楽シート」を活用した実態調査の結果をみると，本学級は学年平均と比較し，「教師との関係」や「学級集団における適応感」「心身の状態」がやや高い一方で，「学習意欲」が低いことが分かった（**図19**）。特に「授業中，自ら進んで学習に取り組んでいる」という項目が他の項目に比べて低かった。また，自己肯定が低く将来に対して否定的で学習に取り組めない生徒がいることも分かった。

そこで，体育大会・文化祭も無事に終わり３年生にとってはこれから受験勉強という時期に，学級集団の自己肯定感や学習意欲を高めるために，次の３点に取り組むことにした。

	観　点	学 年 平 均	学級 平均
1	友達との関係	12.8	12.9
2	教師との関係	9.8	10.3
3	学習意欲	11.1	10.9
4	自己肯定感	10.3	10.3
5	心身の状態	10.4	10.7
6	学級集団における適応感	11.9	12.3

図19　実態調査の結果

イ　取組１「心の器を立たせる」

一人一人の心の状態に気付かせる取組である。受験を目の前にした中学３年生は，何かしらのストレスや将来への不安から，周囲からの助言に対して素直に耳を傾けることができない。自らの心の状態にしっかりと気付かせ，心の器を立て素直な心の状態にする手だてが必要であると考え，次のような取組を行った。

【取組】　「あなたの今の心を次のＡ～Ｄの４つの形に表すならば，どの状態ですか？」

A　500ml 三角フラスコ

B　500ml 丸底フラスコ

C　500ml ビーカー

D　100ml ビーカー

A　底が安定しているが，入口が狭い。（９人／38人中）
B　底が丸く不安定である。(23人／38人中)
C　底が安定して，入口も広い。（４人／38人中）
D　Aと比較してかなり小さい（２人／38人中）

【生徒の反応】

直観で選択した生徒が多かったが，その中でも今の自分の状態とガラスの器の形状を照らし合わせている生徒がいた。他の生徒も選択した説明を聞き，さらに深く考えることができた。ＡやＢの入り口のように，現在の心の状態は周りからの助言をなかなか受け入れることができず，素直な心の状態でないと自ら気付いている生徒も多かった。

【心の器に変化】

生徒自身が心の状態に気付くことにより，これからの目標を達成するために，心を素直な状態にしようとする姿が見られた。

ウ　取組２「不安や希望を明確にする」

①　ワークシートに現在の希望や不安を思いつくままに付箋一枚に一点ずつ記入させる。 ②　不安や希望の優先順を決め，今何をすべきかを考えさせる。

エ　取組３「将来に向けての目標を設定し，行動目標を継続する（ルーティーン）」

①　長期・中期の目標設定

図20のような「個別の目標カード」を活用し，10年後，20年後の将来の生き方を意識した個別目標，受験に向け「全員合格をしよう」という共通目標を設定した。

②　個人の課題

将来の目標達成のためには，「心・学・体」のトータルで向上しなければ目標は達成しないものであることを，「不安や希望」取組２から気付かせる。

③　運を呼び込むために

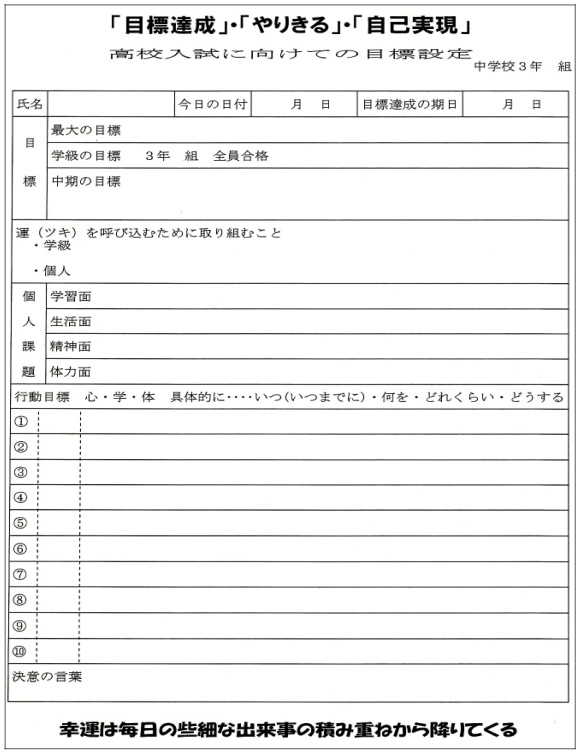
「運は自然と舞い込んでくるものではない」，毎日の積み重ねで運が変わってくることを理解させるとともに，学級全体と個人で運をつかむために，毎日の努力を続けることを考えさせる。

④　目標達成を具体的にする毎日の行動目標を設定する。

ア　行動目標を生活面・学習面・健康面に分け具体的に立てさせる。

イ　行動目標が決まったら優先順位を付けさせる。さらに，決意の言葉を考えさせる。

設定した行動目標を継続していくために，毎朝自己評価をして改善すべきことを気付かせる。


「目標達成」・「やりきる」・「自己実現」
高校入試に向けての目標設定
中学校３年　組

氏名		今日の日付	月　日	目標達成の期日	月　日
目標	最大の目標				
	学級の目標　３年　組　全員合格				
	中期の目標				
運（ツキ）を呼び込むために取り組むこと ・学級 ・個人					
個人課題	学習面				
	生活面				
	精神面				
	体力面				
行動目標　心・学・体　具体的に・・・・いつ（いつまでに）・何を・どれくらい・どうする					
①					
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
決意の言葉					

幸運は毎日の些細な出来事の積み重ねから降りてくる

図20　個別の目標カード

オ　成果と課題

図21は，生徒が将来に目標をもち学習に対して自ら意欲的に取り組むようになった後に，再度「学校楽シート」を実施した結果である。学習意欲と自己肯定感が向上していた。また，「授業中，自ら進んで学習に取り組んでいる」も2.61から2.91と向上していた。

観　点		１回目	２回目
1	友達との関係	12.9	13.1
2	教師との関係	10.3	10.6
3	学習意欲	10.9	11.5
4	自己肯定感	10.3	10.8
5	心身の状態	10.7	11.1
6	学級集団における		

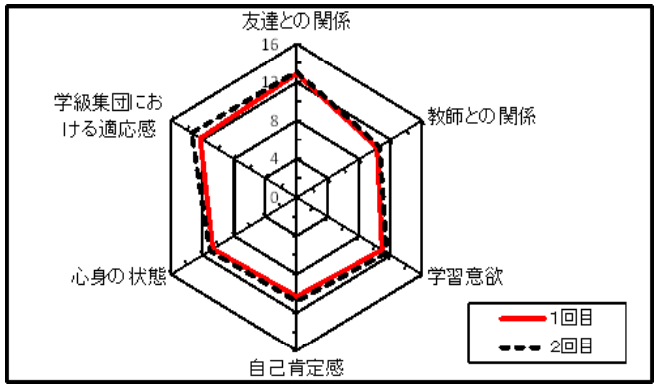


図21　取組後の「学校楽シート」を活用した実態調査の結果

このことから，１回目の調査結果をもとに取り組んだ指導・援助は，有効であったと考える。また，実態調査を複数回行うことは，生徒の変容をとらえるとともに，それまでの指導・援助を振り返る機会にもつながると感じた。

今後は，実態調査の結果を年間指導計画に生かす学校全体での取組も必要であると考える。

⑵　全校における組織的な生徒指導の実践

これまで「きれいな学校つくり」を中心に据え，全校生徒における縦割り作業などを通して，組織的な生徒指導を進めてきている。

本年度は，特に全校一斉での週目標を生かした取組を次のように行っている。

ア　週目標の設定についての取組

昨年度までは，学期ごとに一事徹底事項を決めて取り組んだ。しかし，全校生徒の意識化，全職員での取組が徹底しない状態であった。そのため，本年度の学校目標である「きれいな学校つくり」を達成するための手だてとして週目標を設定して意識化を図った。

【ステップ１】
毎週の生徒指導委員会で現在の問題点を確認し，週目標を全職員に提示する。

【ステップ２】
職員主体の目標設定から生徒会が問題点を考えて設定する。

【ステップ３】
各学年で問題点を考え，週目標を設定する。

※　同じ目標を２週間継続しないようにしている。
※　週目標の掲示物にイラストを入れることでさらに効果的になっている。

整理されている靴棚の様子

イ　成果と課題

４月は全校が同じ目標に一週間取り組むことで意識化が図られ，達成率100％を目指し，取り組んでいた。しかし，教師主導となりがちでなかなか生徒が主体的に動くことができなかったことから，生徒会とタイアップして活動することで，より生徒主体の活動ができるようになってきている。

また，縦割り作業の取組をさらにレベルアップするためにも週目標での意識化は重要である。週目標を設定することにより，全職員が学校の実態に向き合い組織的に取り組むことができたことが大きな成果である。

今後は，週目標がマンネリ化しないように，常に現状を把握して心に届く指導をしなければならない。生徒が動かされている状態は本来の姿ではない。生徒が問題点を考える環境づくりが必要である。そのためには全職員が事前に現状を把握する感覚をもち，気付かせるような指導体制を組織的に取り組む必要がある。

３　Ｃ高等学校における実践例

生徒の学校への適応感を把握するための「学校楽シート」を用いてアンケート調査を実施し，その結果を基に個々の適応感を高めるためにクラス全体，生徒各個人に，どのような指導・援助が必要かを考察した。以下，取組について報告する。

⑴　調査結果に基づく集団（学年）への対応

ア　結果の分析

右の図22，23は，１学年と２学年それぞれの学年平均をグラフに表したものである。

１学年も２学年ともほぼ同じグラフの概形となった。

このことから生徒は「友達との関係」，「学級集団における適応感」が他の観点に比べ高いことが分かった。

総括して学校生活に前向きに取り組んでいると推察できる。

1年生

	観　点	学年平均
1	友達との関係	12.5
2	教師との関係	10.2
3	学習意欲	10.8
4	自己肯定感	10.3
5	心身の状態	10.2
6	学級集団における適応感	12.2

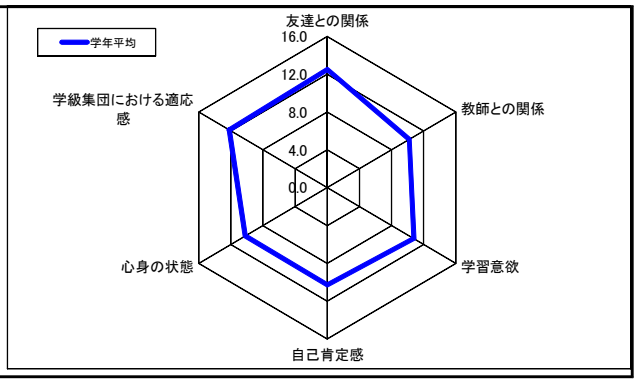


図22　１学年における学校への適応感の状況

2年生

	観　点	学年平均
1	友達との関係	12.4
2	教師との関係	10.0
3	学習意欲	10.8
4	自己肯定感	10.6
5	心身の状態	9.9
6	学級集団における適応感	12.1

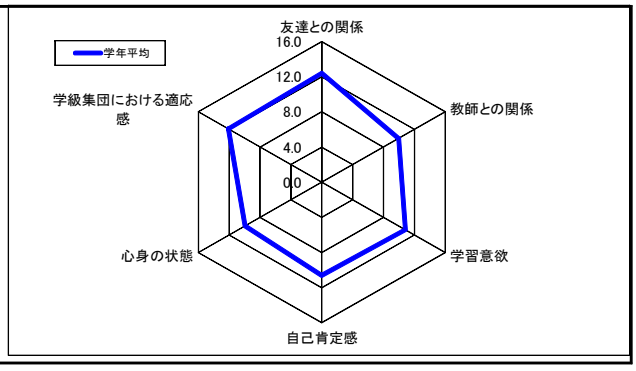


図23　２学年における学校への適応感の状況

イ　調査結果を生かした学年（学校）全体での取組の方向

学校への適応感をさらに高めるためには，生徒の「自己肯定感」と「学習意欲」を高める教育活動を取り入れることが必要である。特に，キャリア教育の視点に立つ活動を推進し，進路指導部との連携を図りながら学習意欲を向上させたいと考える。

学年（学校）全体で取り組む具体的な教育活動として，進路講演会やインターンシップなどがある。そこで学んだ知識を学習意欲の向上へつないでいく工夫や働き掛けが重要となる。生徒の学習意欲を高めることは自己肯定感の向上にもつながり，ひいては学校生活の充実につながると考える。

【具体的な取組】

○　ＬＨＲ等で構成的グループエンカウンターの技法を活用し，自分自身を理解する活動を取り入れる。

○　継続的に進路調べ等を活用し，学年全体で進路意識を高めるガイダンスを行う。

○　生徒が学校生活に積極的に取り組むことができるように，各行事でクラスの連帯感を高める指導・援助を行う。

⑵　個への対応（１年）

ア　結果の分析

(ｱ)　生徒Ａに関する概要

【日常の観察から】

Ａは学級の総務で，常にリーダーとして責任ある行動をとる。

成績は常に上位で，部活動でも中心的存在である。

文武両道を目指す努力家でもある。

【「学校楽シート」の結果から】

Ａは，ほとんどの質問に対し最高点に○をつけており，すべての観点において学級平均を上回っている。学校への適応感は高い傾向にあるといえる。

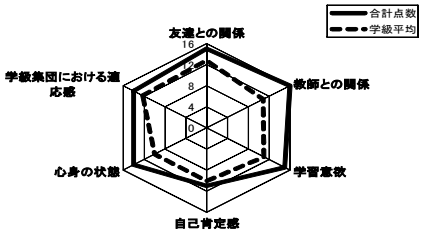
すべての観点が，学級平均値よりも高い中で，自己肯定感が他と比べ低い状態である。

【生徒Ａの個票】

学校楽シート個票

1 年	1 組	1 番	氏名	A	実施日	平成 22 年 10 月 20 日

	観点	合計点数	学級平均
1	友達との関係	15	12.8
2	教師との関係	16	10.9
3	学習意欲	15	11.0
4	自己肯定感	11	10.1
5	心身の状態	14	10.0
6	学級集団における適応感	14	12.3



観点		質問	点数	観点		質問	点数
友達との関係	1	学校には気軽に話せる友達がいる。	4	教師との関係	2	学校には，悩みや心配事を相談できる先生がいる。	4
	8	学級には，気軽に会話ができたり，遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	4		9	学校には自分のことを理解してくれる先生がいる。	4
	14	学校には，自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	3		15	学校には，自分が間違いや失敗してもきちんと訳を聞いてくれる先生がいる。	4
	20	自分が困っているときに助けてくれたり，協力してくれたりする友達がいる。	4		21	学校の先生達は，自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	4
学習意欲	5	授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	4	自己肯定感	4	委員会活動や係活動での自分の仕事は，みんなの役に立っている。	3
	12	授業中は，先生の話をよく聞いている。	3		11	学校行事の計画や準備をやり遂げたとき，「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	3
	18	授業中，自分から進んで学習に取り組んでいる。	4		17	自分には，自分なりのよいところがあると思う。	2
	24	学習した内容をきちんと理解するための，自分なりの学習の仕方がある。	4		23	他人から好かれている方だと思う。	3
心身の状態	6	落ち込むことがある。	2	学級集団における適応感	3	学級の中にいると，明るく楽しい気持ちになる。	3
	13	おなかが痛くなったり，下痢をしたりする。	4		10	学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり，活動したりするのは楽しい。	4
	19	頭が痛くなるときがある。	4		16	この学級の一員でよかったと思うことがある。	4
	25	気分が悪くなることがある。	4		22	学級は，目標やルールが大切にされているので，安心して居心地よく過ごせる。	3
いじめ	7	友達から物を隠されたり，暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	1				
	26	友達から悪口を言われたり，無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1				

(ｲ)　生徒Ｂに関する概要

【日常の観察から】

Ｂは学習意欲に欠け，課題の提出状況及び学習態度で注意を受けることが多く，成績も伸び悩んでいる。

生活面において指導を受けることが多い。指導直後は改善されるが，すぐに同じことで指導を受けている。

部活動をしているが，顧問との人間関係がうまくいっていない。

【「学校楽シート」の結果から】

Ｂはすべての観点において，学級平均を下回っている。特に学習意欲，自己肯定感が低い。

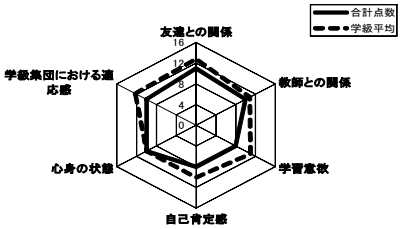
総じて学校への適応感は低い状態にあるといえる。その中で友達との関係は最も高い値である。

【生徒Ｂの個票】

学校楽シート個票

1 年	1 組	2 番	氏名	B	実施日	平成 22 年 10 月 20 日

	観点	合計点数	学級平均
1	友達との関係	11	12.8
2	教師との関係	10	10.9
3	学習意欲	8	11.0
4	自己肯定感	8	10.1
5	心身の状態	10	10.0
6	学級集団における適応感	10	12.3



観点		質問	点数	観点		質問	点数
友達との関係	1	学校には気軽に話せる友達がいる。	3	教師との関係	2	学校には，悩みや心配事を相談できる先生がいる。	1
	8	学級には，気軽に会話ができたり，遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	3		9	学校には自分のことを理解してくれる先生がいる。	3
	14	学校には，自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	2		15	学校には，自分が間違いや失敗してもきちんと訳を聞いてくれる先生がいる。	3
	20	自分が困っているときに助けてくれたり，協力してくれたりする友達がいる。	3		21	学校の先生達は，自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	3
学習意欲	5	授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	3	自己肯定感	4	委員会活動や係活動での自分の仕事は，みんなの役に立っている。	2
	12	授業中は，先生の話をよく聞いている。	2		11	学校行事の計画や準備をやり遂げたとき，「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	2
	18	授業中，自分から進んで学習に取り組んでいる。	2		17	自分には，自分なりのよいところがあると思う。	2
	24	学習した内容をきちんと理解するための，自分なりの学習の仕方がある。	1		23	他人から好かれている方だと思う。	2
心身の状態	6	落ち込むことがある。	3	学級集団における適応感	3	学級の中にいると，明るく楽しい気持ちになる。	2
	13	おなかが痛くなったり，下痢をしたりする。	3		10	学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり，活動したりするのは楽しい。	3
	19	頭が痛くなるときがある。	2		16	この学級の一員でよかったと思うことがある。	2
	25	気分が悪くなることがある。	2		22	学級は，目標やルールが大切にされているので，安心して居心地よく過ごせる。	3
いじめ	7	友達から物を隠されたり，暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	1				
	26	友達から悪口を言われたり，無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1				

(ｳ) 生徒Ｃに関する概要

【日常の観察から】

Ｃはおとなしい性格で，クラスの中であまり目立たない存在である。

学習活動，部活動も積極的に取り組んでいる。

服装や容儀など生活面で指導を受けることもない。

【「学校楽シート」の結果から】

学習意欲・学級集団への適応感は高いが，心身の状態は低い。観点により値に差がありバランスが悪い。

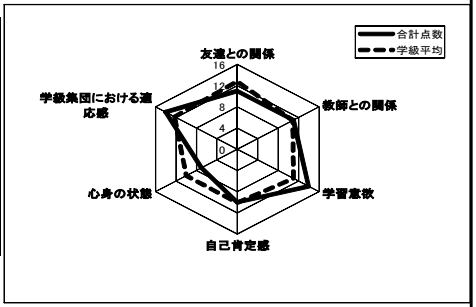
教師との関係は高いが，友達との関係は学級平均よりも低く，何らかのストレスを抱えながら学校生活を送っていると思われる。

【生徒Ｃの個票】

学校楽シート個票

1 年 1 組 3 番	氏名	C	実施日	平成 22 年 10 月 20 日

	観点	合計点数	学級平均
1	友達との関係	11	12.8
2	教師との関係	11	10.9
3	学習意欲	14	11.0
4	自己肯定感	10	10.1
5	心身の状態	7	10.0
6	学級集団における適応感	14	12.3



観点		質問	点数	観点		質問	点数
友達との関係	1	学校には気軽に話せる友達がいる。	3	教師との関係	2	学校には，悩みや心配事を相談できる先生がいる。	3
	8	学級には，気軽に会話ができたり，遊びに誘ってくれたりする友達がいる。	3		9	学校には自分のことを理解してくれる先生がいる。	3
	14	学校には，自分の悩みや本当の気持ちを話せる友達がいる。	2		15	学校には，自分が間違いや失敗してもきちんと訳を聞いてくれる先生がいる。	3
	20	自分が困っているときに助けてくれたり，協力してくれたりする友達がいる。	3		21	学校の先生達は，自分に対してみんなと同じように公平に接していると思う。	2
学習意欲	5	授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	4	自己肯定感	4	委員会活動や係活動での自分の仕事は，みんなの役に立っている。	2
	12	授業中は，先生の話をよく聞いている。	3		11	学校行事の計画や準備をやり遂げたとき，「よくがんばったなあ」「よくやったなあ」と思うことがある。	4
	18	授業中，自分から進んで学習に取り組んでいる。	4		17	自分には，自分なりのよいところがあると思う。	3
	24	学習した内容をきちんと理解するための，自分なりの学習の仕方がある。	3		23	他人から好かれている方だと思う。	1
心身の状態	6	落ち込むことがある。	1	学級集団における適応感	3	学級の中にいると，明るく楽しい気持ちになる。	4
	13	おなかが痛くなったり，下痢をしたりする。	2		10	学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり，活動したりするのは楽しい。	4
	19	頭が痛くなるときがある。	2		16	この学級の一員でよかったと思うことがある。	4
	25	気分が悪くなることがある。	2		22	学級は，目標やルールが大切にされているので，安心して居心地よく過ごせる。	2
いじめ	7	友達から物を隠されたり，暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	1				
	26	友達から悪口を言われたり，無視されたりしてつらい思いをすることがある。	1				

イ　生徒Ａ，Ｂ，Ｃの個票からの考察と取組の方向

生徒Ａは，友達との関係や学級集団における適応感が高く，学校生活において積極的に取り組んでいる。また，教師との関係は満点であることから，信頼関係が成立していると同時に強い責任感を伴いながら行動していることが予想される。自己肯定感が低くなったのは，周囲の期待を裏切らないために目標を高く掲げ，自己評価が厳しくなっていると考えられる。実際に，うまくいかない場合に，自己嫌悪に陥る傾向が見られる。

Ａに対して，今のＡを評価しつつ，「うまくいかない自分」も受容できるように働き掛け，過剰適応にならないように留意する必要がある。

生徒Ｂは，総体的に各項目の値が低く，学校生活での取組が消極的である。特に学習意欲に欠け，自己肯定感も低下している状態である。また，高校での目標が見いだせず学校生活において指導を受けることが多いことから，教師との関係も低い値となったと予想される。友達との関係が良好であることが学校への適応感を保っている。今できていることを認めることからＢとの関係を作ることが大切である。

Ｂに対して，不得意教科の具体的な指導・援助を行うなどして，まず教師との信頼関係を構築する必要がある。その際，Ｂの友達にも働き掛けＢが援助を受けやすくなるよう配慮することも重要である。

生徒Ｃは，日常の観察から成績は中位であるが学習意欲もあり，生活面で指導を受けることもなく何も問題がない生徒に見えた。また，無遅刻・無欠席で，保健室への来室もないことから心身の状態も良好と思っていたが，調査結果から何らかのストレスを抱えていると思われた。普段，おとなしく自己主張することがないので見過ごしていた側面である。個別相談をすると，悩みを打ち明ける友人もいないことや頑張っても成績が伸びないことに不安を感じていることが分かった。

Ｃに対して，教師との関係は良好なことから個別相談を通してまず心身の不安を軽減させる必要がある。また，友達との関係づくりを促進させる活動を学級活動の中で取り入れる必要がある。

今回，「学校楽シート」を活用し，生徒理解を試みた。日常の観察から見取ることができにくい生徒の意識をとらえることが容易になることも明らかになった。今後の課題として各観点の適応感を高める指導・援助をどのように計画し実施していくか具現化することである。